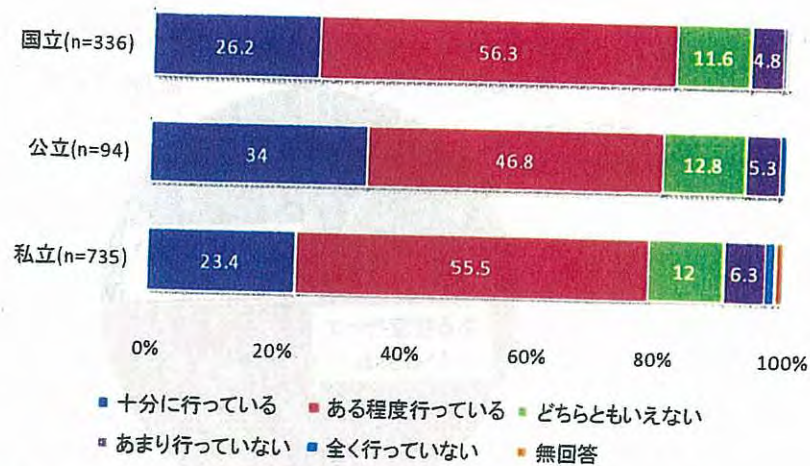
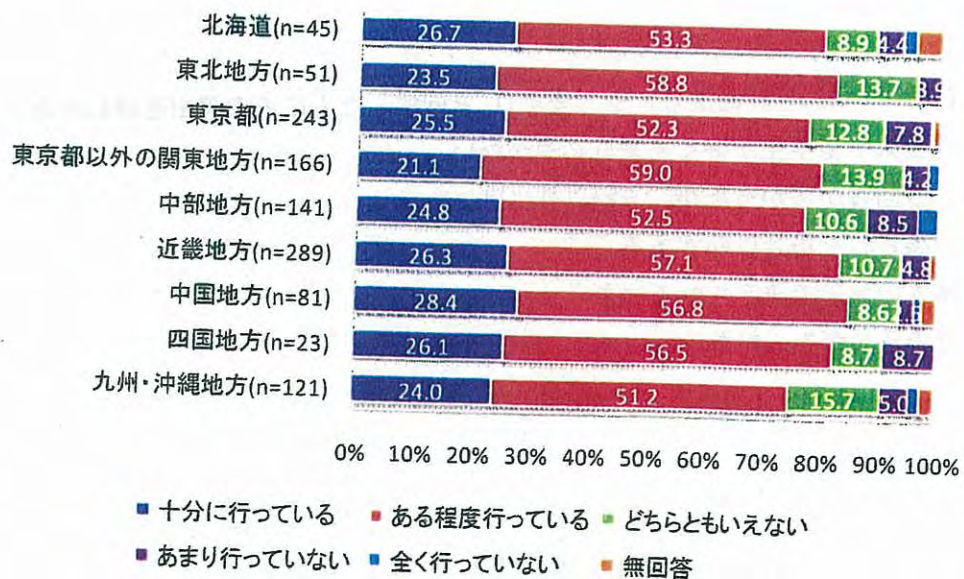


次に、大学の設置区別に進路に関する指導・助言の実施状況を見ると、公立大学で「十分に行っている」という回答割合が他の区分よりも多くなっている。



図Ⅲ-29 大学の設置区別に進路に関する指導・助言の実施(%)

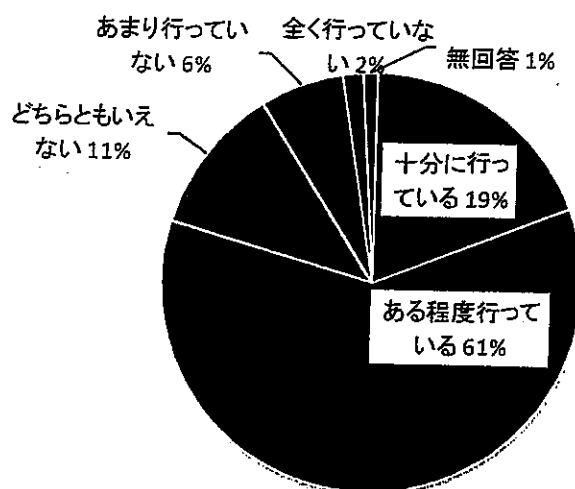
大学院の所在地別の進路に関する指導・助言の実施状況では、どの地域もほぼ同様の傾向を示し、意味のある差は見受けられない。



図Ⅲ-30 大学院の所在地別進路に関する指導・助言の実施(%)

3.5 進路先情報の把握

博士課程（後期）修了後の学生の進路先情報を把握しているかどうかについては、把握を行っている（「十分に」＋「ある程度」）割合が80%、行っていない（「あまり」＋「全く」）割合が8%という結果で、進路指導の実施状況とほぼ同様の割合であった。

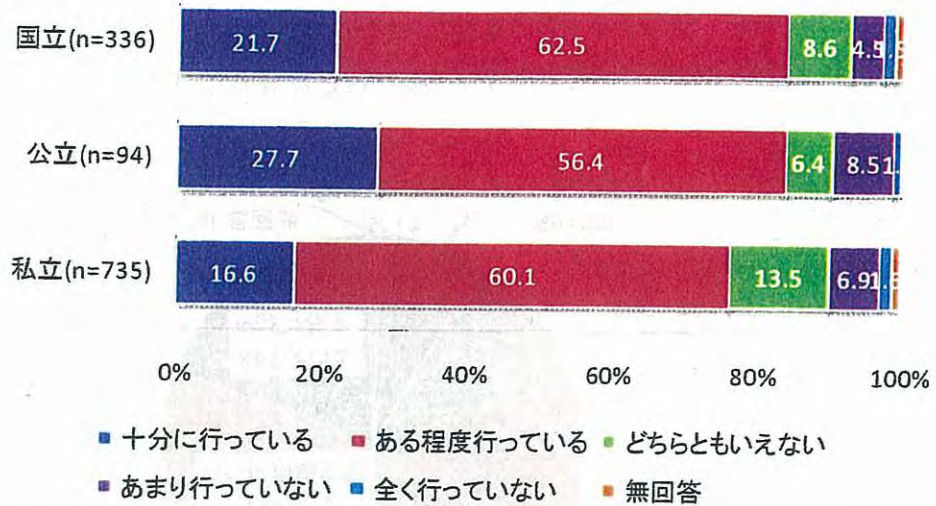


図Ⅲ-31 進路先情報の把握(n=1165)

情報の把握を行っていない（「あまり」＋「全く」）と回答した人にその理由を尋ねたところ、前項と同様に留学生や社会人学生で情報把握の必要性があまりないという回答が多かった。これら以外の理由としては、

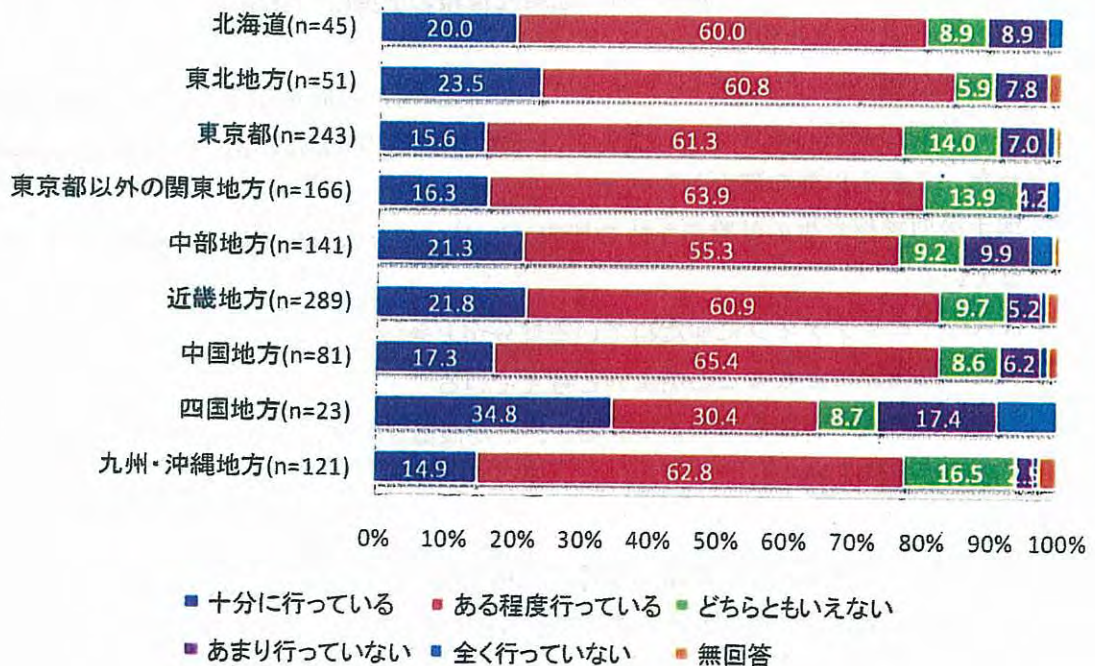
- ・博士後期課程学生の就職のための情報はほとんどないのが現状で、教員がこの情報に頼っている
- ・各人のイニシアティブにゆだねている部分が多いため
- ・学生の自主性に任せることがよいと考えている
- ・大学に進路指導のためのキャリアセンターが設置されておりそこに任せているなどがあげられていた。

次に大学の設置区別に進路先情報の把握状況を見ると、公立大学で「十分に行っている」とする回答割合が他の区分に比べて多かった。



図Ⅲ- 32 大学の設置区分別進路先情報の把握(%)

大学の所在地別の進路先情報の把握状況では、四国地方で「あまり行っていない」とする回答割合が他の地域よりも大きいのが目に付く。



図Ⅲ- 33 大学院の所在地別進路先情報の把握(%)